

平成 25 年度の資金運用結果について

平成 25 年度は、低金利は継続したものの、前半では、アベノミクスによる異次元の金融緩和と財政政策の出動により、円安と株高が進みました。しかし、その後、米国が量的緩和策の縮小を開始したことから、新興国から資金が米国に回帰し始めて国際金融が不安定な状況になったこともあり、株価、為替相場とも、調整色を強めました。

本学では、平成 25 年度資金運用方針に基づき資金運用に臨みましたが、上記の状況の下、当初想定していたポートフォリオの構築はできませんでした。しかし、結果として、リターンについては、約 4 億 5 千万円（約 1.8%）と目標水準を上回ることができました。

以下に平成 25 年度の資産クラスごとの運用結果について簡単にご報告いたします。

1 国内債券（期末残高：約 149 億円）

国内債券については、将来の金利上昇局面を考慮しつつ、国債・政府保証債は 10 年ラダー、地方債、財投機関債、事業債は 5 年ラダーのポートフォリオを構築することを予定しておりました。しかし、低金利状態が継続し、長期債の購入を控えたため、想定したポートフォリオの構築はできませんでした。その結果、この資産クラスの運用益は、約 1 億 2 千万円（利回り約 1.0%）となりました。

平成 26 年度は、金利リスクに配慮しつつも、継続してポートフォリオの完成を目指した運用を行います。

＜購入債券＞ 国内債、合計 17 銘柄約 54 億円購入

注1 ラダー：各年限が均等な割合になるようポートフォリオを構築する方法

2 外国債券（期末残高：約 36 億円）

外国債券については、平成 25 年度前半から円安が進み、外国債券購入にかかる基準為替レートを上回ったため購入は見送りとなりました。しかしながら、外国債券からのクーポン収入と円安の効果により、この資産クラスの運用益は、約 1 億 1 千万円（利回り約 2.9%）となりました。

平成 26 年度も為替動向に注目し、引き続き購入にかかる為替基準や適格基準を遵守した運用を行います。

＜購入債券＞ なし

3 国内株式（期末残高：3 億円）

国内株式についての運用益は約 2 百万円となりました。

平成 26 年度も安全性に配慮しつつ、運用基準に従った運用を行います。

4 その他（期末残高：約 57 億円）

その他（仕組債）については、平成 25 年度は期初より円安局面が続いたため、為替系の仕組債の運用益が上昇するとともに、結果として 15 銘柄早期償還が行われました。その結果、この資産クラスの運用益は、約 2 億 2 千万円（利回り約 2.5%）となりました。

平成 26 年度も仕組債については為替動向に注意し、その管理に取り組んでいきます。

以 上